



原作 * 清水かつら
童謡詩劇

うずら



サンアゼリア国際芸術祭
20th Anniversary International Art's Festival

2013年 12月7日(土)・8日(日)
両日15時開演

和光市民文化センター サンアゼリア 大ホール

主催：童謡詩劇うずら公演実行委員会
公益財団法人和光市文化振興公社

少し昔の話である。
売れない貧しい詩人がいた。親は既に他界。
唯一の肉親である弟妹は田舎の遠い親戚に預けている。
小さな町工場で働きながら詩を書き続けているが、
下宿の大家さん親子には『変人』だと思われる節がある。

そんな詩人のもとに、ある日ひよんなことから二羽のうずらがやって来た。
うずらに弟妹の姿を重ねる詩人。そして、詩人と二羽のうずらの不思議な生活が始まった。

夢を追い、家族を愛し、そして最後に詩人の見たものは・・・
詩人の思いが心に響く詩情豊かな楽曲と共にファンタジーとなって繰り広げられてゆく。

2010年初演の大反響を受け、早くも新演出で再演！
童謡、演劇、そしてオペラの融合をめざし、幅広い世代に受け継いでゆく新しい音楽劇、
それが〈童謡詩劇うずら〉です。
作曲家・和田薫に和光市文化振興公社が委嘱し、
埼玉県和光市ゆかりの童謡詩人・清水かつらの随筆をもとに、
劇団青年座の協力を得て、
市民とプロの音楽家・俳優・スタッフが約3年半の歳月をかけ、
手作りで制作した作品です。



キャスト



詩人：網島郷太郎



はな：工藤 優



正次：加藤幹夫



母：腰越満美



大家：郡 愛子



大家の娘：鵜木絵里



学校の先生：小鉄和広



郵便屋：松本武洋
和光市長（友情出演）

舞台風景

※写真はすべて初演時のものです



アンケートのお声

- ・全編を彩るすばらしいメロディに魅せられた。【40代男性】
- ・とても清々しい感動。【50代女性】
- ・とても心に響く歌をありがとう。【30代男性】
- ・日本の詩と音楽が融合して世界に広がれば良い。【20代女性】
- ・舞台全体からパイオニア精神の集合といったエネルギーを感じ圧倒された。【30代男性】
- ・オペラ、生オケ、コーラス、演劇の融合がすばらしい。母の愛、兄弟愛に涙した。【40代女性】
- ・情のうすい昨今の世に一滴の慈雨をもたらすことに深く感銘した。【70代男性】



和光市民文化センター開館20周年記念
サンアゼリア国際芸術祭

童謡詩劇うずら

2013年12月7日(土)・8日(日) 両日15時開演
和光市民文化センター サンアゼリア 大ホール

作曲・芸術監督 和田 薫 (サンアゼリア国際芸術祭レジデンスコンポーザー)
脚本・作詞 新井鷗子
指揮 栗田博文
管弦楽 サンアゼリア フィルハーモニカ
合唱 うずら合唱団/うずら児童合唱団
慶應義塾志木高等学校ワグネル・ソサイエティー男声合唱団

キャスト

| | | | |
|----|-------|-------|-----------------|
| 詩人 | 綱島郷太郎 | 大家 | 郡 愛子 |
| はな | 工藤 優 | 大家の娘 | 鵜木絵里 |
| 正次 | 加藤幹夫 | 学校の先生 | 小鉄和広 |
| 母 | 腰越満美 | 郵便屋 | 松本武洋和光市長 (友情出演) |

チケット S席5,000円 A席4,000円 B席3,000円 学生席1,500円

お問い合わせ 和光市民文化センター 048-468-7771

